

Japanese Graded Readers

レベル別 日本語多読 ライブラリー



にほんごよむよむ文庫

レベル **0** vol.1 4

「いただきます」 木村家の毎日



作 = 栗野 真紀子

挿絵 = 石川 あぐり

監修 = NPO法人日本語多読研究会

レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんごよむよむ文庫

レベル **0** vol.1 **4**

きむら け まいにち
木村家の毎日

「いただきます」

きむら け ゆみ とち まりあ
木村家に由美の友だちのマリア
あそ ばん
が遊びにきました。これから晩ご
はん。ゆみ まりあ は、お母さん
てっだ
を手伝います。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル	クラス	語彙数	文字数／1話
0	入門	350	～400
1	初級前半	350	400～1500
2	初級後半	500	1500～2500
3	初中級	800	2500～5000
4	中級	1300	5000～10000

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

とうけんきゅうかい がくしゅうしや よ つく もくでき にほんご きょうし あつ
当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、
2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。
「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりし
ています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

【レベル0】 vol.1

木村家の毎日

「いただきます」

2009年7月10日 初版 第1刷 発行

作：栗野 真紀子（日本語多読研究会会員・日本語教師）

作画：石川 あぐり

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：山中 一徳／小金澤 篤子

録音・編集：スタジオグラッド

デザイン・DTP：仙台 忍

発行人：天谷 修平

発 行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-digital.co.jp

http://www.ask-digital.co.jp/tadoku (「にほんご よむよむ文庫」公式サイト)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 法人日本語多読研究会 2009

Printed in Japan ISBN978-4-87217-711-4

きょう どようび
今日は、土曜日です。

きむら いえ まりあ き
木村さんの家に、マリアが来ました。

こんにちは。

いらっしゃい！

いらっしゃい。

まりあ ゆみ とも
マリアは、由美の友だちです。





^{かあ}
お母さんが、^い言います。

「ごはんですよ」

^{ゆみ}と^{まりあ}が、^い言います。

「はい」

ゆ み ま り あ か あ て つ だ
由美とマリアは、お母さんを手伝います。

ゆ み て ー ぶ る は し お
由美は、テーブルに箸置きを置きます。

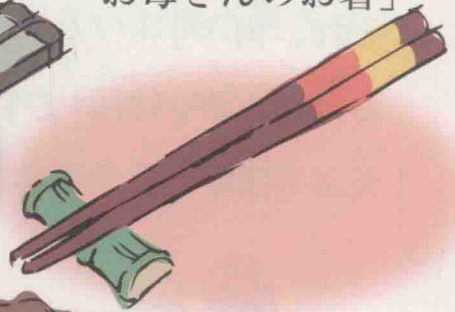
は し お
箸も置きます。



「これは、
とう お父さんのお箸」



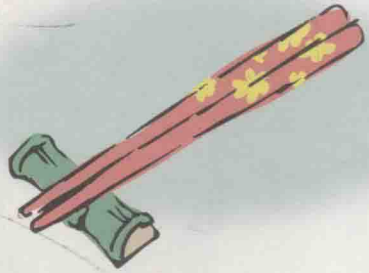
「これは、
かあ お母さんのお箸」



「これは、
にい お兄ちゃんの」



「これは、わたし



「これは、まりあ



ま り あ き
マリアが、聞きます。

なに
「それ、何？」

かあ い
お母さんが、言います。

てん
「天ぷらよ」



にい
お兄ちゃん、
だめ！

ゆ み て ー お る
由美は、テーブルに
おお さら お
大きいお皿を置きます。
ま り あ ちい
マリアは、小さい
さら お
お皿を置きます。



かあ　　まりあ
お母さんが、マリアに
しる　わた
みそ汁を渡します。



ゆ み い
由美が、言います。

「おみそ汁は、右よ」

ま り あ し る み ぎ お
マリアが、みそ汁を右に置きます。



ゆみ ^い由美が、言います。

「ごはんは、^{ひだり}左ね」



「それは、^{とう}お父さんのお^{ちやわん}茶碗」



「それは、
^{かあ}お母さんのお^{ちやわん}茶碗」



「それは、^{にい}お兄ちゃん」



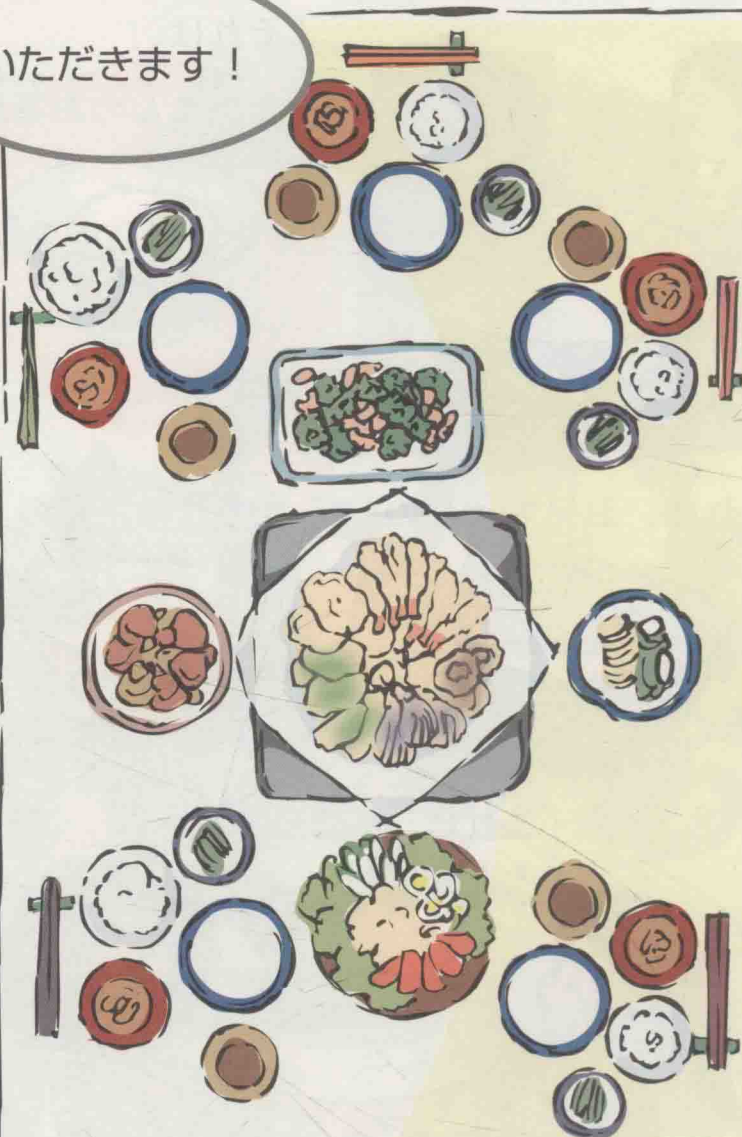
「それは、^{わたし}私の」



「これは、
^{まりあ}マリアちゃん」



いただきます！



いただきます。

いちろう
一郎が、言います。

「おかわり！」



ごちそうさま。



ごちそうさまでした。